

ひまわり通信 27 ねん4がっ

入園・進級おめでとございます

園長先生のお話

新しくひまわりの園長として着任いたしました。頭島です。本園はモンテッソーリ教育指導法を使って、子どもたち一人ひとりに丁寧に声かけをしながら教具へと導いていきます。教育の本来あるべき姿とは、一人ひとりが本来持つ生きる力をいかに引き出しうるかにあります。半ば強制し覚え込ませるような教育では子どもたちの良さを見失い、道を誤ることもあるでしょう。子どもたちが生まれながらに持つ個性と感性を保育者はよく観察し、何が今この子に必要であるかを的確に見極め、教具を提供し、誇い掛けていきます。子どもたちは、そのとき発揮する集中力と達成感によって大きく成長するのです。

園長 頭島



モンテッソーリの幼稚園ようこそ！

暖かい日差しがふりそそぎ、園庭の花たちが咲き誇る4月、155名の子ども達とスタートして早1か月が過ぎようとしています。初めのうち不安だった新入園児さんたちも、「お名前なに？」「靴箱ここだよ！」「いっしょにお部屋に行こうね」と在園児さんのやさしいお世話をもらいながら少しずつ園生活に慣れてきました。降園時、「また明日遊ぼうね！」って、満面の笑みで言われた時は嬉しさが心が躍ります。



モンテッソーリの幼児教育を取り入れている園を見学した人は必ず「子どもが落ち着いて静かですね」と言います。そして、子どもが集中して教具に向かっていく姿に驚きます。この様に思われる理由は、この時期の子どもは、元気でじっと静かにしていることが難しいという見方をしている人が多いことなのでしょう。しかし、子どもは本来自分で面白いと思えば興味をもったことには、積極的に関わり集中して取り組みます。そして、その関わった物(お仕事)を発展させます。子どもの、興味・関心→集中→発展といった一連の流れを大切にすることで、子ども自ら、失敗や経験を通して秩序を確立し、自立していきます。今年も子どもたちと共に喜びを感じて1年過ごしたいと考えております。どうぞ宜しくお願い致します。

主任 福留



給食楽しいな！

「じゃがいも、おいしいね！」
「わたしは、わかめのご飯がすき！」
「ぼくね ぜんぶすきだよ！」



「うーん？どれがいいかな？」



「かみさま、おいしい給食をありがとうございます。何でも食べられます様おまもりください」

クラスを紹介します

あぐねず組

大きな制服に身につけ、少し緊張した表情で入園を迎えた新入園児さん。今年度、あぐねず組には、7名の新しいお友だちが加わりました。新しいお友だちが入園してくることをとても心待ちにしていたA・Bさんたち。3月までは、お世話をしてもらったことが多かったA・Bさんたちも4月になり、新しいお友だちを迎えると、自分の知っていること、身支度、お祈り...一生懸命に教える姿があります。今まで教えて貰ったことを、自分も教えてあげたい...目には見えない温かい心の絆が今年も次々に渡されています。

二宮

ぼうろ組

「僕のぼうろと同じ色！！」黄緑の折り紙、植物の葉っぱ等を見て、嬉しそうに教えてくれた男の子。他の子どもも、「ぼうろの金魚は、ご飯いっぱい食べるよね」「ぼうろのみんなも給食いっぱい食べるよね！」と少しずつではありますが、ぼうろ組の一員という意識の芽生えが見られるようになりました。新しいお友だちとも、今では一緒に「先生、お外に行ってきます。」また、「〇〇ちゃん縫いさし上手だね」「僕もそれ好き！！」とお友だちの得意な事や好きな事をさっそく見つけている姿もあります。これから、子どもたちの心の輪がどんどん広がって行くことを願い、援助してあげたいと思っています。

田中



べとろ組

4月、24名でスタートしたべとろ組。子どもたちは、新しいお友だちが入ってくることを楽しみにしていました。初日から、お世話の取り合いになっていて、微笑ましい光景がたくさん見られました。その中でも、お母さんに会いたくて泣いていた★ちゃん。周りが一生懸命声を掛ける中、ひとりのAさんが自分のハンカチで涙を拭いてくれました。すると、すぐ泣き止みAさんのことを見つめる★ちゃん。周りの子が「わー！魔法のハンカチだ！私の魔法のティッシュでも拭く？」と言ってみんな笑顔になりました。その子どもたちの姿に心が温まりました。これから、また1年子どもたちと過ごす毎日が楽しみです。有田

よぜふ組

Aさん11名、Bさん15名、Cさん4名でスタートしたよぜふ組。初めの頃は、新しいお友だち、新しい環境に子どもたち自身、とてもドキドキだったと思います。お部屋でも中々新しいお友だちとの関わりもなく、「あの〇〇組だった子がね...」と名前前で呼び合う姿もあまり見られませんでした。しかし、最近では、いろいろなお友だちと関わる姿、「一緒に××しよう！」「一緒に××しよう！」と話す姿が見られ、時間と共に少しずつ子どもたちの心も縮まってきたのかなと感じます。又、泣いてるお友だちがいたら頭を「ぼんぼん」とする子、探し物を一緒にならずずっと探してあげる子、子どもたちの優しさに心が温かくなります。これから1年間子どもたちの優しい心、そして自分で頑張る心を大切に、ひとり一人が自信を持って自分のやりたいことができるよう、寄り添っていきたくと思います。

森水

まりあ組

約半数が新入園児でスタートしたまりあ組。在園児のAさんBさんは、毎日お世話に大忙しです。「先生じゃなくて、お姉ちゃんとお祈りがしたい！」と言うCさんがいるくらいお世話上手なAさんやBさんたち。頼られるのもなんだか嬉しいような様子です。お兄さん、お姉さんの優しい心がいっぱい溢れるまりあ組です。

今村

くらら組

くらら組では、今B・Cさんを中心に日常生活の練習のひとつである「洗濯」が人気です。ある日、▲▲君が洗濯をしていると、水を流す際、下のバケツの位置がズレていて、水が床に流れ出してしまいました。どうしていいかわからない▲▲君へすぐAさんBさんたちが駆け寄ってきて「青い雑巾で拭けば大丈夫」と声をかけ、手伝って拭いてくれる姿が見られました。子どもたちの思いやりの心から自然と出る行動に嬉しくなりました。

浅井



★モンテッソーリ教具って何？★ Vol.9

モンテッソーリの幼稚園に行くと、子ども達は黙々とお仕事をしています。手元には何やら「道具」の姿が... 教具と呼ばれるこの道具こそマリア・モンテッソーリが幼児教育をはじめた出発点といわれます。子どもが夢中になる教具、その一部を紹介していきたいと思ひます。



ビー玉移し

移す(ビー玉)

6か月の頃は何でも手に触れた物をつかんで口に運びなめて確かめていた子どもも1歳になると意識して手でつかんで器から器に移せるようになります。そして、3歳になるとスプーンや箸を正しく使って物を移せるようになります。加えて物を分類するという知的要素が加わってきます。特に年少の子どもたちは、このお仕事が大好きで、どのクラスでも誰かが必ず「移す」お仕事に挑戦しています。最後まで溢ることなく移せた時の達成感に満ちた微笑は、最高の贈り物です。

Aぐみ・Aさん→年長児
Bぐみ・Bさん→年中児
Cぐみ・Cさん→年少児
Dぐみ・Dさん→満3歳児



学校法人カトリック学園 ひまわり幼稚園

〒891-0113 鹿児島市東谷山3丁目31-13 TEL:099-268-2340 FAX:268-2333